

SONY



活用事例: 8 West Consulting Inc.様【欧州】

両社のパートナーシップの 成功によって新たな 遠隔モニタリングサービスが誕生

本記事は2021年3月にSony Network Communications Europe BV.が発行した記事を日本語に翻訳したものであり、日本国内の事例を扱った内容ではありません。発行時点の各国の状況を踏まえて作成されており、記事中で紹介されているサービスも日本国外での利用を想定したものです。従って、現行のソリューションや国内の法規制および市場環境には合致しない内容が含まれる場合があります。また、ウェアラブルデバイス上に実装するアプリケーションや連携するサービスの設計によって仕様が異なるため、記事中で紹介されている全ての機能および性能がmSafetyを使った全てのソリューションで必ず実現できることを保証するものではありません。

ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社が日本国内で提供しているmSafetyソリューションの詳細については、下記の公式ホームページをご覧ください。
<https://msafety.sonymetwork.co.jp/>

※mSafetyのウェアラブルデバイスは、各国の規制当局により承認を受けた医療機器には該当しません。

mSafety



8 Westは、ソニーのmSafetyを用いてどのように救命救助のサービスを生み出したか

アイルランドのエンタープライズ向けソフトウェア開発会社である8 West Consulting (以下、8 West)は、ソニーが提供するカスタマイズ性に優れたウェアラブルプラットフォームであるmSafetyをベースに、健康安全サービス向けのアプリケーションを開発しました。mSafetyプラットフォームでは、LTE規格での通信が可能な専用デバイスと安定したバックエンドソリューションをセットで提供しており、導入企業はリモートベースの独自の健康安全サービスを開発できます。

8 Westが開発したSafeTrxは、危険を伴う屋外スポーツの愛好家やリスクの高い作業への従事者、ひとり暮らしの高齢者など、多様な状況におかれたユーザーの安全を守るのに役立ちます。一般的なコンシューマ向けのウェアラブルデバイスと異なり、mSafetyを用いることで、エンドツーエンドの暗号化に対応した包括的な遠隔モニタリングソリューションと、使いやすく耐久性やバッテリー寿命に優れたデバイスをセットで利用できます。

CEOの個人的な体験がミッションに

8 Westの共同CEOであるJohn Murphy氏は、かつて友人とアルプス山脈を登山していた時に間一髪のところで危機を免れました。彼らは雪と氷が混じった冬山を登り終えて下山する途中、標高4,000メートルの地点から200メートル下の岩棚に転落しました。「我々2人は怪我をしていました。」とJohn Murphy氏は回想します。「幸い携帯電話が繋がりましたが、携帯電話で助けを求めた際に凍傷を負ってしまいました。」

John Murphy氏はこのような衝撃的な体験を経て、同様の状況で命を救うことのできるサービスを構築したいと考え、その結果生まれたのが、SafeTrx ACTIVEのアプリケーションです。John Murphy氏と彼の同僚はいくつかのコンシューマ向けウェアラブルデバイスでアプリケーションの開発を試みましたが、ソニーのB2BソリューションであるmSafetyに出会った際、すぐさまその優位性を感じました。



「mSafetyを用いることで、利用者とサービスプロバイダーとの間でセキュアな通信が可能となると同時に、双方に対して目的に合わせたデータを提供することができます。一般的に市販されているウェアラブルデバイスは、必ずしもそうした目的に適った設計とはなっておりませんでした。」

8 West Consulting共同CEO、John Murphy氏

「使用方法によっても異なりますが、バッテリーは数日間持続します。」とJohn Murphy氏は言います。「ソニーのプラットフォームでは、グローバルにデータローミングができる通信サービスやFOTA（遠隔からのソフトウェアアップデート）などを実現する制御システムが用意されており、デバイスの管理やソフトウェアのアップデートも簡単に行えます。」

8 Westにとってもう1つ重要なmSafetyのメリットは、低電力のIoT通信規格に基づく長距離無線通信ができる点です。「従来のLTE規格よりも優れており、通信信号の品質が悪い環境でもソリューションが機能します。」とJohn Murphy氏は続けます。「また、同様に重要な点として、クラウドのモニタリングシステムとウェアラブルデバイスとの間の通信がエンドツーエンドで暗号化されていることが挙げられます。デバイスに不要なアプリケーションをダウンロードできない点でも、コンシューマ向けウェアラブルデバイスと差別化できています。」

「ソフトウェア開発で目指すところは、複雑なものを簡単かのように見せること、感じさせることです。」

8 West Consulting共同CEO、John Murphy氏



スポーツの愛好家、ひとり作業の従事者、 高齢者、慢性疾患の患者に向けた 遠隔モニタリングアプリケーション

8 Westは現在、ソニーや潜在的な利用者との共同開発やトライアルを経て、mSafetyプラットフォーム上で3つのSafeTrxアプリケーションを構築し、提供しています。

SafeTrx ACTIVE

1つ目のアプリケーションのSafeTrx ACTIVEは、サーフスキー、カイトサーフィン、カヤックなどの危険を伴うアクティビティを行う人々と、地域の海洋救助隊や沿岸警備隊、その他の救急隊による救助サービスとの間を繋いでいます。「このデバイスは軽量で防水性があるため、ウォータースポーツや野外でのアクティビティの愛好家にとって最適なトラッカーです。」とJohn Murphy氏は言います。2020年には、6か国における1,000件以上の救助活動でSafeTrxが活用されました。

**「私たちはソニーのチームを100%信頼
しています。」**

8 West Consulting共同CEO、John Murphy氏

実際の活用事例

オランダのウォータースポーツ協会であるJumpteamでは、近年、海上で荒天に巻き込まれたことにより数名のメンバーが亡くなりました。同協会は現在、SafeTrx ACTIVEを活用してこうした事故を防ぐための対策に取り組んでいます。

搜索活動、救助活動向け SafeTrx ACTIVE の主な特徴

- 耐久性と防水性に優れたウェアラブルデバイス
- 双方向のデータ通信
- 継続的なトラッキングとアラート
- 4G/5Gでの通信

SafeTrx PROTECT

2つ目のアプリケーションはSafeTrx PROTECTです。これはひとり作業への従事者の見守りを目的に設計されており、企業のアプリケーションに組み込むことができます。この例では、mSafetyのウェアラブルデバイスが、作業者の位置情報をトラッキングして生体データをモニタリングするための「Digital Buddy」として機能しています。利用者が危険な状態に陥ったり事故を起こしたりした際に、それらを迅速に検出します。「このソリューションは従業員の安心感につながると同時に、雇用主側にとっても従業員をペアで配置する場合と比較してコスト削減を図ることが可能です。」とJohn Murphy氏は言います。



SafeTrx CARE

3つ目は、遠隔ヘルスマニタリングのためのアプリケーション SafeTrx CAREです。8 WestのサービスはmSafetyのウェアラブルデバイスと連携し、健康状態や生活習慣、環境に関するデータをモニタリングしてクラウドにアップロードします。クラウド側のシステムでは、様々な指標を用いて安全管理用のパラメータを設定し、そこからの逸脱が発生した際に異常を検知してアラートを発信します。

KNRM と SSRS

8 Westはオランダ(KNRM)およびノルウェー(RS)の海上救助組織と協力し、乗組員の安全性を向上するための方法を検討しています。SafeTrx PROTECTは、ハードな環境下におかれている乗組員のモニタリングに役立ちます。また、指令センターのスタッフがウェアラブルデバイスに向けて出動命令を送ったり、必要に応じて乗組員を呼び戻すこともできます。

ひとり作業向け SafeTrx PROJECTの主な特徴

- 耐久性のあるウェアラブルデバイス
- エンドツーエンドのデータ暗号化
- LTE Cat-Mでの通信
- 健康状態のモニタリング

実際の活用事例

ダブリンシティ大学(DCU)はSafeTrx CAREの初期の顧客の1つで、自宅で暮らす高齢者の健康と安全を管理するプロジェクトに関して受賞歴があります。アイルランド国立大学コーク校ASSERTセンターの研究・教育ディレクターであるPat Henn博士は、次のようにコメントしています。「SafeTrx CAREは、高齢者の健康的で活動的な生活をサポートする有効なテクノロジーです。このサービスを通じて高齢者の安全で自立した生活を支え、家族と介護者の双方に安心感をもたらすことが可能です。」

遠隔ヘルスマニタリング向け SafeTrx CAREの主な特徴

- 使いやすいウェアラブルデバイス
- 長時間のバッテリー寿命
- アラート発信と双方向のメッセージ
- 転倒検知
- 外部Bluetooth LEセンサーとの連携

SafeTrx ATLAS

8 WestはSafeTrx ATLASと呼ばれる新たなプロジェクトに取り組んでいます。このソリューションは、mSafetyに対して、サードパーティーのサービス提供者が容易に独自のサービスを構築できるSafeTrxソフトウェアを搭載したものです。「mSafetyのウェアラブルデバイスを採用したいがコーディングスキルやエンジニアリソースが不足する開発者にとって、理想的なソリューションとなります。」とJohn Murphy氏は言います。

Sony Network Communications Europeのウェアラブルプラットフォーム部門ディレクター兼責任者であるAnders Strömbergは、8 Westがシステムインテグレーターとして、自社のソフトウェアソリューションとmSafetyプラットフォームを統合した点を高く評価しています。「SafeTrx ATLASにより、当社だけではアプローチするのが難しかった多くの企業に対し、ソニーのテクノロジーを提供する可能性が生まれました。」と同氏は言います。



「当社はソニーとの間で、非常に生産的で相乗効果の大きいパートナーシップを築いてきました。」

8 West Consulting共同CEO、John Murphy氏

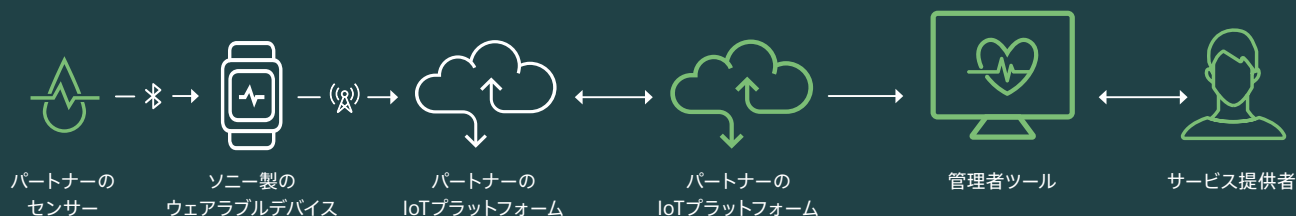
8 West Consultingについて

アイルランドのコークを拠点とする8 West Consultingは、ビジネスコンサルティングおよびソフトウェア開発を行う企業として1998年から事業展開しています。現在アイルランド国内で200人以上の従業員を抱えており、ルーマニアにも拠点を有しています。現在の8 Westの社名は、2017年に旧オーナーである米国の大手医療保険会社Anthemから現在の経営陣がMBOを行った際に取得したものです。創設者兼共同CEOはJohn Murphy氏とEamonn Franklyn氏の2名です。

ソニーの mSafety

mSafetyは、様々なユースケースで人々の安全を守るための遠隔ヘルスケアサービスや安全サービスを提供する企業向けに設計された、信頼性の高いプラットフォームです。mSafetyは、セキュアなバックエンドのクラウドソリューションとモバイル通信可能なウェアラブルデバイスから構成されており、両者を組み合わせることで遠隔モニタリングアプリケーションを構築するためのインフラを提供しております。mSafetyではIoT通信を活用することでシステム設計の複雑さを軽減しており、エンドユーザーを危険から守ると同時に複雑な作業からも解放します。また、サービスの提供企業に対しても価値の高いデータを提供します。

詳細については、<https://sonynetworkcom.com/msafety/> をご覧ください。



mSafety